

私立大学情報教育協会  
平成25年度  
大学職員情報化研究講習会  
基礎講習コース報告  
D-1班  
【TEAM アグレッシブ】

1

発表テーマ

“納得のいく”授業評価アンケート  
をつくらう

2

“納得のいく”授業評価アンケートをつくらう

テーマ選定理由(1) 大学の役割

<私たちが考えた大学の役割>

社会から期待される人材の輩出？

↓どんな期待？

ディプロマポリシーに見合った人材の輩出

<役割を果たすために、大学は何をしなればいけないのか>

知の保証をするために、  
「教育」関連部門(教員、TA、教務・授業支援部門 etc.)が現状を理解する必要がある

3

“納得のいく”授業評価アンケートをつくらう

テーマ選定理由(2) 大学の現状

<大学の現状はどうだろうか？>

たとえば...

- ・同名科目でも、担当教員が異なると授業内容が均一ではない
- ・シラバスと授業内容との乖離
- ・授業の到達目標と、実際の授業理解度とのギャップ
- ・使い回しのレジュメ、テスト etc.

<役割を果たすために、どのような取り組みが必要なのだろうか？>

○ 現状を把握するための情報収集・情報提供

- ∴ 学生は、授業改善に興味が無い／関心が無い
- 教員は、授業「改善」に積極的ではない
- ↑ここを変えていくには、現状についての正しい理解が必要！

4

“納得のいく”授業評価アンケートをつくらう

テーマ選定理由(3) このテーマを選んだ理由

大学の役割、大学の現状を踏まえて、何が重要と考えたのか？

- ・学内(教職員・学生)のニーズを汲み取る&フィードバックする仕組みが無い！
- ・あるはずの制度や設備を活用できない／していない！

職員が主体となって、現状の打開に取り組む



“納得のいく”授業評価アンケートをつくらう！

5

“納得のいく”授業評価アンケートをつくらう

問題点の深掘

他グループと問題点を共有するために、グループ討議で話し合われたことを列挙する。

- ・授業評価アンケート本来の目的は授業改善のためだけど...  
↑現在進行形の受講生にはプラスが無い  
↑むしろ長い目で見た「学生」のため  
⇒現在進行形で学生にFBを返すには毎回or5回、10回など途中で途中でアンケートを返す

・やりっぱなしで終わりにしている...

⇒事例紹介

6

## “納得のいく”授業評価アンケートをつくろう

### 事例

授業アンケート結果の公表について

<A大学> 公表なし、フィードバックなし ...やりっぱなし...

<B大学> 公表なし、フィードバックあり

⇒ただし、悪い評価を受けた教員は怒って終わり

↑悪い評価を受けた先生に対するポジティブな取り組みが無い？

↑公表が無い⇒次回以降受講する学生の参考にもならない

<C大学> 公表あり、フィードバックあり

優秀な授業については冊子化、配布。また、評価の高い教員の表彰アリ

⇒この状況を学生も認知

<D大学> 公表あり、フィードバックなし ...改善には結びつく具体的取り組み不足

7

## “納得のいく”授業評価アンケートをつくろう

### 解決策の検討

<大学としての取り組み>

授業期間中に複数回のアンケートを実施&その都度、フィードバック  
アンケートの100%実施と、全ての授業評価結果を一般公開

<教員自身の役割>

具体的な授業改善案の提示と授業後の再点検

⇒次年度授業への反映

<職員の役割>

・学生にアンケートの主旨を理解させる(新入生ガイダンス等で告知)

・教員に、自由設問欄をもっと活用させる(授業の目的・教員の意図)

例) 授業形態による設問の応用

・アンケート結果を統計・数理的に処理をし、教員に個別に説明。

⇒改善点を前向きなコメントとして提示する

8

## “納得のいく”授業評価アンケートをつくろう

### 大学のイノベーションの提案

<授業アンケートの、有効的な活用のために...>

★アンケートの授業期間中の複数回の実施

★自由設問の積極的な運用

★前向きなコメント・改善案を教員にフィードバック

★教員による授業の目標設定と、学生アンケート結果による事後評価

⇒双方のギャップを、教員が納得の上で認識・改善できる

模試の結果票のような、継続的な改善が実現できれば！！

9